

夢をかたちに…!!

発行人
星野みつひろ後援会
〒354-0021
富士見市大字鶴馬 2612-7
TEL / 049-254-6332
FAX / 049-252-4651
www.hoshino-corp.com /3h iro/
em ail :3h iro@hoshino-corp.com

平成 20年 12月 日 No.13

mitsuhiro hoshino supporters news letter

「拝啓 新市長様」

拝啓 新市長様！

今夏の市長選挙では各候補者が揃ってマニフェストを作成し、市民へ政策を示した選挙でした。マニフェストはラテン語で「明示する」という意味。「政権公約」とも訳され、具体的な政策を示し、後に検証することができるものです。有権者はこのマニフェストを読み、考え、感じ、投票の判断としたと思うのです。

見事当選の栄を得られた今、選挙結果を重く受け止め、市民の付託に応える責任があります。情報の公開と説明責任をしっかりと果たすこと。そして、改革の断行、政治の実践は時に孤独な

決断が強いられます。

リーダーは「恐れず、

ひるまず、とらわれず」

の姿勢を貫き通し、決断

実行することです。真に

市民の為の政治をお願いするものです。

最後に、

この選挙によってあなたのマニフェストに命が吹き込まれました。積極的な市民との対話と議会との議論を通して政策が収斂されることが望まれます。行政職員を良くまとめ、トップリーダーとして、新しい富士見市創造に邁進してください。

敬具



星野みつひろ、51歳の誕生日





平成20年・9月定例議会報告

●●● 議会トピックス ●●●

9月定例会は星野新市長誕生を受けて、執行部は初議会の準備などの理由から日程を繰り下げ、9月30日から開会されました。本定例会には平成19年度決算認定議案が上程され、決算特別委員会を設置して議案を付託、3日間の審査を行いました。主な議案としては、一般会計補正予算の審議、新市長の給料減額の条例案等が上程され、全て可決・承認されました。

一般質問では多くの議員から新市長のマニフェストへの質問が集中し、新市長への期待とその意気込みが試されました。市長の退職金についての質問で、答弁に食い違いが生じ10月22日の議会が紛糾、市長はこの責任を取り自身の減給処分と謝罪を行いました。退職金は県内の市町村とともに事務組合を組織しており、途中退会は困難であると考えますが、市長は検討を加え、公約の達成に努力すべきだと考えます。

議第53号 平成19年度富士見市一般会計歳入歳出決算認定について

* 歳入総額は248億1,638万1,319円、歳出総額241億

7,544万8,623円となり差引額は7億2,375万6,799円。前年度の歳入と比較して1億8,864万円0.8%の減額。歳出は2億6,414万円の増額です。自主財源は税制改正に伴う税源委譲や市税徴収部門の体制強化などの努力で市税、寄付金及び繰越金が増額となり前年収入を上回った。逆に依存財源は地方交付税等、市債などは減額となりました。歳出は行財政改革による歳出節減が図られ、人件費等の経常経費の減少で成果を収めるが、制度改革に伴う民生費や元利金の償還額の増加により前年を上回りました。繰入金として予算化していた財政調整基金5億円は繰入れせずに済みました。

最後に、今世界的景気後退局面で一層厳しくなる財政状況の中、自主財源の積極的な確保は最優先の課題であり、更なる改革は必然であります。

(財政力指数の表を参照ください。)

議第49号 平成20年度富士見市一般会計補正予算(第2号)について

* 既定の予算に1,347万円を追加し、総額を267億994万円とするものです。審議は主な歳出である設計委託費1,000万円に集中しました。

東上線(みずほ台)柳瀬川駅間)の人道橋の存続を求める陳情を3月議会で審査、採択しました。これを受けた執行部の決断で、東武鉄道が撤去しようとする人道橋の存続、架け替え負担交渉の為に、市として橋の設計委託費を計上しました。市長選後問もないこと、東武との交渉経過報告もななく、唐突感を否めないのですが、架け替え工事費の負担割合等を決める交渉材料として必要であるとのことから、賛成致しました。しかし、交渉は難航を極めていようです。

区分	財政力指数	経常収支比率	公債費比率	公債費負担比率
17年度	0.720	92.6 (%)	15.7 (%)	15.4 (%)
18年度	0.740	88.7 (%)	13.2 (%)	14.3 (%)
19年度	0.770	91.5 (%)	13.5 (%)	15.5 (%)
差引(前年)	0.030	2.8	0.3	1.2

財政力指数は、地方公共団体の財政上の能力を示す数値で、この数値は1に近いほど財政力が強いとみることができる。
 経常収支比率は、財政構造の弾力性を示す指標で人件費、扶助費、公債費など経常にかかる経費に、税などの経常的に収入される一般財源がどれだけ充当されたかを示す比率である。この比率が高いほど財政の硬直化が進んでいるといわれます。
 公債費比率は、地方債の元利償還額の状況を示す指標で、経常一般財源の占める公債費の一般財源所用額の比率である。この比率が高いほど財政硬直化の一因とされています。
 公債費負担比率は、公債費による財政負担の度合いを示す指標で、公債費に充当された一般財源総額に対する比率である。この比率が高いほど財政運営の硬直性の高まりを示すものである。

これからの富士見市を語る

いよいよ今回から、富士見市の現状分析をもとに医療・教育・産業などの各分野について具体的な提案をしていきます。

今回は、わが市の医療・介護についてです。全国平均に比べればまだまだ若年層が多いわが市の医療・介護のキーワードは、「予防」と「子育て支援」だと考えます。

富士見市も、今後は団塊世代が高齢化するなど、高齢者の多いまちになることは避けられません。しかし、高齢者医療費等の負担が増えるという脅威におびえるのではなく、予防医療と介護予防で、いつまでも元気に生き生きと暮らせるまちを目指すべきです。具体策として、高齢者の方に対する肺炎球菌ワクチン接種の推奨（補助等）を提案します。六十五歳以上の死因の第四位が肺炎です。このワクチンは重篤な疾患をひきおこす危険性の高い肺炎球菌による肺炎の予防に効果があり、一回の接種で五年間は効果が持続するといわれています。

次に、介護予防のためのリハビリテーションを、町会の集会所などに専門職を派遣して行う、巡回型リハビリ事業の実施を提案



市民の医療を支える新たな拠点がまもなく移転・開業
鶴瀬病院（東入間医師会第2次救急医療体制病院）

します。簡単に言えばリハビリの出前です。これでふだん引きこもりがちな高齢者の方々も気軽にリハビリを受けることが出来るのではないのでしょうか。

最後に、小児科の入院施設が近隣に少ないわが市で、母親が安心して子育てが出来る環境を作るために、母親教室や相談機関の整備拡充を提案します。これには、市内の開業医はじめ多職種が連携して事業を行うことが何より重要です。

みつひろ

苦言・甘言

＝くげん・かんげん＝

富士見市に住み初めて今年で24年になりました。このまちで人生の半分あまりを過ごしたことになります。

みつひろさんとは、息子の中学校のPTA活動を通じて知り合いました。

いつも元気で声が大きいので、街で出会った時にはちよつと恥ずかしい・・・

（～）

私の2人の息子たちも、長男は来春社会人となり、次男が再来年には成人式を迎えようとしています。

「富士見市、今年最後の成人式みたいよ。」と、成人式が終わるたびに聞こえてきます。本当なのでしょうか――。

できることならそんな不安な噂が聞えてくる事のないように、ご尽力いただきたいと思っております。

私が人生の半分を過ごしているこの富士見市を、もっともっと素敵なまちにして下さい。応援しています。

針ヶ谷 H・H

